

## 企画提案書作成要領

### 1)番組の設計と提案のポイントについて

今回制作する番組は、本学の若手教員を、教育・研究を代表する「顔」として描き、広報戦略上、タレントイノベーションが実施できる動画であることがポイントとなります。

これまで、番組づくりの要件として「比較するモノサシがあること」や、「楽しく学びながら教育・研究を理解できること」は提示してきましたが、さらに数年同企画を続けることも考えており、同じコンセプトで番組制作を続ける場合は特に“共通する表現のクセ”が必要とも考えています。

演出、編集、映像、ナレーター、ナビゲーター…どこにそのクセ、味わいを求めるかが大切になりますし、興味深く、飽きずに見ていただくためにその工夫が不可欠と考えます。

今回はどちらかといえばドキュメンタリー番組の方向を検討しており、「プロフェッショナルー仕事の流儀」・「プロジェクトX」・「情熱大陸」・「カンブリア宮殿」…ドキュメンタリーで研究や開発に追った番組には、それなりの“クセや匂い”があります。

ストーリーやドラマ性を高めるための工夫も必要です。社会的にどんな意味を持つものか、やがてどんな貢献が出来るのか、教員の収録には人間性に及ぶ部分や、社会との接点を示すものも必要でしょうし、最後まで飽きずに興味を持って見ていただくために、演出・編集方法では、全体の統一感などを工夫するなど、オープニングやエンディングに臨場感や高揚感、さらにインパクトが必要とも考えています。

こうした企画構成・表現の工夫がこれまで以上に必要なことから、ディレクター費用を追加しました。

後述 3)の番組基本フォーマット例を参考に、4)の例題で、番組構成およびその制作方法を提案してください。ラフで結構ですが、どんな味付けで、どう表現していくかなど、具体的な展開方法を落とし込んでいただければと存じます。それは属人的に言えば、どんなディレクター、編集者、あるいは構成作家をたてるか、ということにもなるかと思えます。プロのご提案をお待ちしております。

### 2)企画提案書に記載いただく項目

#### ①番組タイトル

印象度が高く、信州大学のブランディングに資するタイトルであること。

#### ②指定題材での構成台本(※企画提案における最重要の判断材料となります)

後述の番組構成フォーマットおよび指定した題材で、具体的な番組構成、表現等を提案すること。

出来る限り絵コンテなどで、提案の特徴がわかりやすい方法を検討すること。

#### ③制作実施体制

担当部署、役割、必要に応じて担当者氏名なども記載し、実施体制を明快にすること。

外注先がある場合は法人名、担当者名などを明記すること。

#### ④実施スケジュール

対象教員を提示してからの企画・収録・編集・校正等の1回分のタームおよび6回の制作時期にについて記載すること。

#### ⑤実績一覧およびサンプルの提示

同種または類似業務の実績、およびサンプルも可能な限り提出すること。

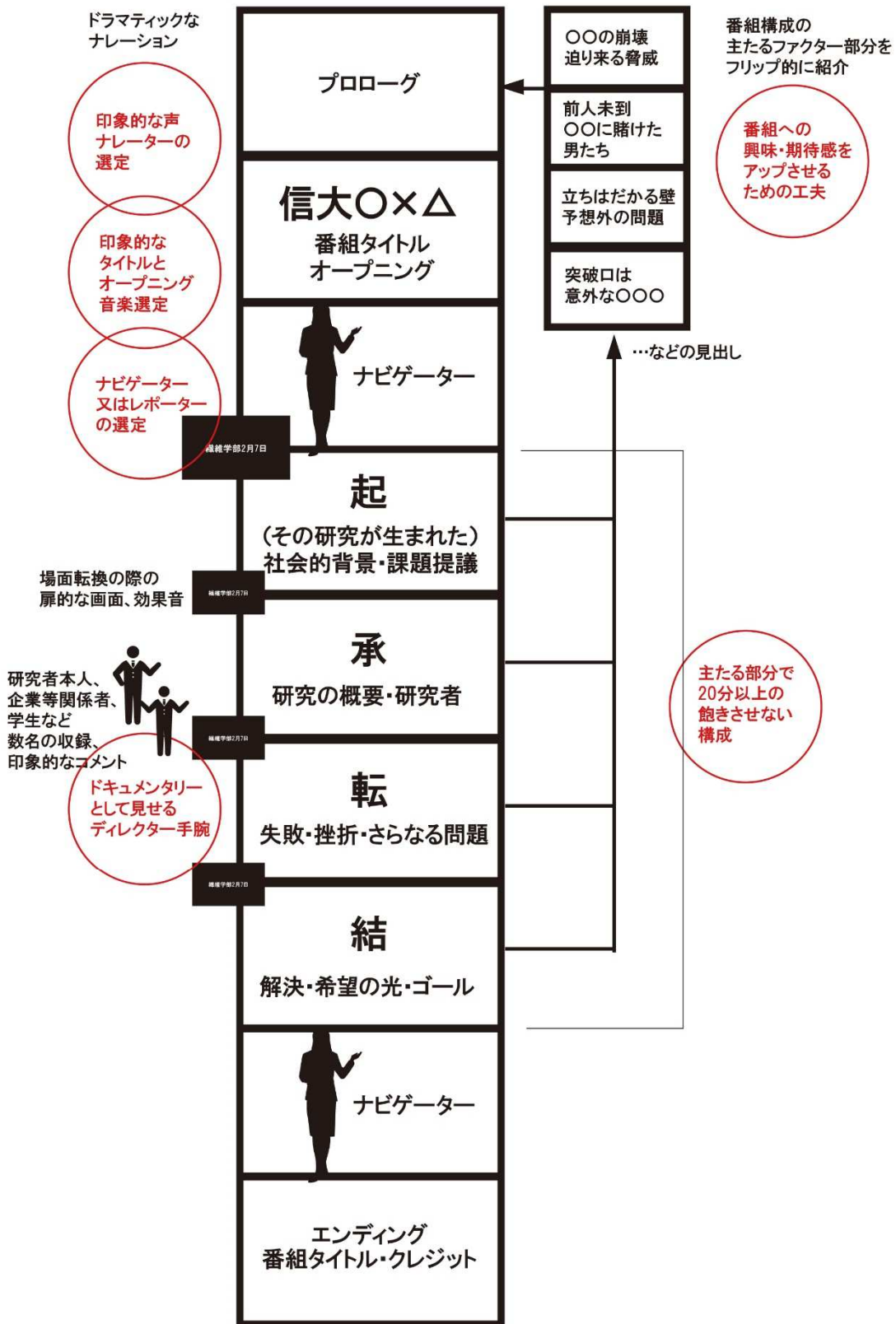
#### ⑥告知方法およびその他の広報協力メニュー

1年度分を記載すること。

### 3)番組構成フォーマット(参考)

H31年度放送公開講座番組構成フォーマット例(※プロジェクトX風とした場合)

広報室



※上記のフォーマットを参考にして番組構成の提案書を作成すること。

#### 4)提案いただく構成台本の題材

学術研究院(繊維学系) 上條正義教授と以下の感性工学研究を例題として提案すること。

繊維学部ホームページ <http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/textiles/guidance/teacher/prof/26678.html>

※ネット上にある同教授の関連動画(夢NAVIなど)も参考にし、実施案を作成すること。

<https://talk.yumenavi.info/archives/1853>

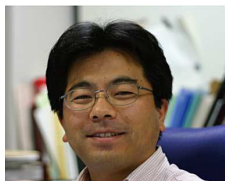
### 先進繊維・感性工学科

感性工学コース

## 感性計測： 快適感を伝える技術をつくる！

“着心地”、“座り心地”、“触り心地”、“使い心地”、“寝心地”、“乗り心地”、“見易さ”などの快適/ストレス関係を脳、心臓、筋肉などの生理反応や表情や身体の動作を計測することから評価できる方法について研究しています。快適感やストレス状態を伝える新しいコトバや指標が作れば、快適で健康が持続できるモノや環境が作れるはずです。人が発するあらゆる情報を計測して、心地を伝える新しい尺度をつくる研究は、あらゆる産業から注目されています。つたえる—つたわる—つなげる技術の提案が感性計測の研究です。

#### 教員紹介



上條 正義 教授

信州大学繊維学部助手、准教授を経て、2009年から現職。主な研究分野は感性工学、計測工学、生体システム工学など。よく学び、よく楽しむが研究室の合言葉。球技大会などイベントが多い。

#### 研究から広がる未来

『考える被服：Intelligent Clothing(IC)』の開発が将来の目標です。ICは着装者の健康データを24時間測り、快適/ストレス状態を見える化します。ICによって、人の快適/ストレスがいつも計測でき、着心地、乗り心地、座り心地、寝心地などの心地を見える化するだけでなく、自分の健康を保持するための予防医療・健康支援技術が可能になります。

#### 卒業後の未来像

生理反応や心理反応を測定して製品を評価できる感性計測は、自動車、化粧品、寝具、住居、家電、文房具、情報などあらゆる産業で注目されています。様々な産業の研究開発、企画開発の技術者として卒業生は活躍しています。



「自分に合う寝心地が良いベッドはどれ？」ベッド選択支援システムを作るために寝心地を評価できる方法を研究しています



「いい笑顔」「眠そうな顔」「疲れている？」表情から人の状態を推測できる評価技術を研究しています